



## 『成熟した愛、その家庭と人間関係』

しよんむちよる  
説教者: 鄭南哲牧師

本日聖書の箇所: 創世記2章23-25、3章9-14節 ・今週の御言葉: ヨハネの福音書13章1節

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！今年も早いもので下半期(しもはんき)に入りました！一週間もお元気でしたか。もう一年中の半年が過ぎ、新しい7月が始まりました！引き続きみなさんのお体と心がキリストの平安のうちに守られ、みなさんの家庭と全ての手の業がさらに祝福されるように！そして、益々愛する家族、牧場、教会家族など全ての大切な関係が回復され、守られ、祝されますように切にお祈り申し上げます！

私たちはたくさんの人々と会って関係を保って生きています。その中でも一番基礎の関係であり、一番大切な関係と言えれば夫婦関係、あるいは家族の関係だと言えるでしょう。そして、いくらお金が多くても、広い家に住んでも、会社で昇進し上の人になってもその大切な家庭が愛の関係が守られて行かなければなりません。

夫婦の中いつも自分にその愛と信頼関係が満ちているような時、どんな葛藤や悩みがあっても克服出来ます。そんな時には問題があってもあまり問題にはなりません。しかし、我々の悩みと問題はその愛というものがいつも熱いわけではなく、夫婦や家族の関係の中で冷めてしまう時もあります。愛という感情がいつも満たされているわけではない時もあります。まるで心の状態が海の水のようにざっと押し寄せてくるように満たされる時もあれば、時にはざっと押し流され冷めてしまう時はあります。実はその時が関係において重要な時ではありませんか。

今日は神様の御言葉を通して特に我々の愛の感情が冷めた時であっても、どうやって愛の関係を保ち、今よりさらに成熟した愛の関係を保って行くことができるのかについてみなさんとともに考えてみたいと思います。

一般的に私たちの家庭を例えとして考えてみましょう。男女が会って、お互いの似てる共通のところに共感し、お互いの持っていない違うところに魅力を感じ、好感(こうかん)を抱き、心が引かれ、恋に満ちて結婚に至ったではありませんか。愛の感情が満ち満ちてついに結婚にまでゴールインします。恋愛の時は相手の短所すら、魅力的でうつくしく見えて、なんでも包容(ほうよう)的でした。愛の心と感情に満ちていたためでしょう。

ところが、結婚の後、新婚のほやほやラブラブの時がすぎ、お互いに慣れてしまった時からは、愛の感情が冷め、愛を感じるよりも、冷静が先に働き始めるため、どうしても互いの短所や弱点、合わないところの為、お互い責め合いやすくなります。

**この時から大切になって来るのが、愛に対する責任の意志と行いです！**結婚、家庭の生活を愛で保ち、保たせる力の中で一番、強いのは、実は愛の感情ではなく、まさしく**愛に対する責任の意志と姿勢**ではありませんか。二人が愛のゆえに結婚して家族が出来たならば、付き合いの時との一番の違さは、**結婚の後からは、愛の責任と犠牲が伴われる**ということでしょう。

**夫婦への愛の責任、子供の愛への親の責任、親の愛への子供の責任、家族の愛に対する責任！が実はもっとも重要になって来るものではありませんか。**

私たちはこれらのものが当たり前のように思っていますが、今日の家庭内で何か問題や危機が生じた時に、その愛の責任から避け逃げたり、却って互いを攻め合いながら責任を転嫁しようとする事で、ついに家庭の大切な夫婦関係や親子の関係、家族関係、そして大切な人々の人間関係がどれほど多く崩されてしまっているのか分かりません。

今日の家庭の中で一番根本的なあらゆる問題の大きな原因と言え、私は**愛に対する責任意識**があまりにも薄くなったり、甘く考えてしまっているのではないかとみなさんは思われます。そのため、さまよっている家族や子供たちが増え続けています。今日のシングルの中ではあっさりそのような家族への責任を負うことが自身の自由が奪われ、苦しくなるのみのものかのように思われ、結婚事態を避けようとするケースも多いのは珍しくない話です。**未熟した愛と成熟した愛の一番違う点は、責任意識のある愛をもっているかどうかではないでしょうか。**それによって、家族やすべての人間関係において信頼が生まれ、さらにその関係を強くなるようにさせます。**未熟な人間関係は自身の責任意識と担うとするよりも、感情的なふるまい、感情によっていつもゆるぎます！その時その時、自身の感情によって人々に接する態度が変わります。ですから、いつも関係が不安定です。しかし成熟した関係とは責任のある愛がその関係を揺るがないようにつかみまます！そして未熟な関係を持つ人は何か問題が生じた時、いつも相手やほかの人に責任だと問いますが、責任を担う愛で建てられた関係は先に相手をせめず、却って自身含め、共に責任を負おうとします！**今までみなさんの夫婦、家族、牧場、我々の教会は最近いかがでしょうか。

## <①未熟な愛:責任転嫁・責任回避 VS 成熟した愛:最後まで愛への責任を伴われる!>

今日の本文である創世記2-3章を見ると、神様によって始めて造られた人間であり、人類を代表であり、一番人間関係の基礎であるはじめての夫婦の夫アダムと妻エバ、人類初めての夫婦とその家庭の姿が書かれています。今日の本文2章23節に、「人は言った。「これこそ、ついに、私の骨からの骨、私の肉からの肉。これを女と名づけよう。男から取られたのだから。」」始めアダムとエバ夫婦はあれほど愛し合い、愛の告白をしていたのに、その愛の夫婦関係が3章にはくずれる場面が出て来ます。アダムとエバ夫婦は自分たちの行動に対して責任を負うのではなく、お互いの相手に責任を転嫁しています。アダムとエバは神が禁じられた善悪の知識の木の実を、蛇の形で現れたサタン誘惑に捕らわれ取って食べてしまいました。そして罪を犯してしまった結果、恥ずかしさと恐ろしさに捕らわれ、神から離れ、逃げて身を隠れました。すると、神様はまず、アダムに表され、禁じられた善悪の木の実を食べたのかを問われます。その時アダムはどうやって行動しましたか。

創世記3章12節「人は言った。「私のそばにいるようにとあなたが与えてくださったこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです。」

夫アダムが言った言葉をよく観察して見てください。自分が善悪の知識の木の実を食べたのはエバのせいだったと言うことです。もちろん、まず、妻エバが蛇の形で現れたサタン誘惑に陥ってしまい、神の約束を破って食べてはならない木の实を食べてしまいました。しかし、実はその時、夫アダムもその場で一緒にいたのに、妻エバを止めさせようとしなかったのではないのでしょうか。

しかし、彼は傍観(ぼうかん)し、沈黙していました！その後、妻エバから食べてはならない善悪の木の实を渡された時にも、アダム自分の意思で食べなくても可能だったのに、すぐ迷わずに食べてしまったのです！それなのにも関わらず、悪い結果に対して夫アダムは自分の責任を避けながら、全て妻エバのせいにしてしながら攻めています！妻エバにすべての責任を転嫁し、責任回避をしています。

ところが、夫アダムはそこで終わったわけではありません！夫アダムが最後に責任転嫁を、結局神様にまでしていました！アダムは「私のそばにいるようにとあなたが与えてくださったこの女が！」だと言います。つまりこのようにされたのは究極的に神様にまでせいにしていたのです。

次は神様が妻エバに問われます！創世記3章13節をどなたが読んで見ましょう。「神である主は女に言われた。「あなたは何ということをしたのか。」女は言った。「蛇が私を惑(まど)わしたのです。それで私は食べました。」

また、妻エバも自分の責任を蛇に転嫁します！もちろん、この夫婦を誘惑し、惑わしたサタンの責任が一番多かったのは当然でしょう。罪を犯した瞬間から二人は自分の言い訳と自己弁明するばかりで、徹底的な自己中心で利己主義者のような姿になっています。神の御前で間違った大変な結果に対し、お互いの責任を転嫁し、お互いを責める悲惨な夫婦の姿に転落してしまっています。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！このアダムの夫婦の中でだれも「私が間違いました。わたしのせいです！妻ではなく、夫ではなく、私にも責任があります。私にも問題がありました！」と言いませんでした。ただ自分自身には何の責任がないだけではなく、夫アダムは愛する妻のせいで、エバはサタンのせいだと責めているのです。自分たちの罪を認め、告白せず、愛する人々のために自分が責任を取ろうともしません。

このように罪を犯した人は自分の責任から逃れ、ほかの人に責任を転嫁する見本は人類の先祖であり始めの人、始めの夫婦であったアダムとエバの姿から、今日の我らにもよく見られる姿ではありませんか。

ですから、私たちはみなアダムの子孫であるため、私たちもほかの人を責め、責任をほかの人に転嫁するのにどれほどすばやく、天才的な存在なのかわかりません。一つの体なる一番親密な夫婦関係の中、その始めの夫アダム以後、今日私たちにも罪がもたらした罪の本姓がそのまま我々に残され伝わって来ていると聖書は教えて下さっています。

ですから我々が愛しています、あなたのためには何でもしますと言いながら、人の愛は結局、自分自身のための自己中の愛にすぎない弱さと限界のあるものであることを認めなければなりません！今日は私たちが燃え上がる愛に落ちたとしても、明日わずかな自分に損に敏感になりやすく、互いに責め合う関係になってしまいがちであることをいつも念頭においてください。

最近家庭の中でみなさんの姿はいかがでしょう。問題が巻き込まれると、自分より愛する人や他人を責め、責任を転嫁する

ことは人類の歴史が始まってからほど長いのです！実は数多くの関係がむずかしくなっている理由本質は、まさにここにありませんでしたか。

“私の責任でした。私のあやまちでした。私がかちがいました。私が責任を担います、私たちが共に責任を取ります！ともに責任を負い合います。”このような愛への責任意識を私たちが持っているならば、私たちの間での葛藤や問題は意外とたやすく解決され、関係はさらに強められ、家族関係も、全ての人との関係も守られて行くと思えます！ですから私たちが成熟した人間関係をつくり、関係の回復を願うならば、この成熟した愛！愛への責任の意識をしっかりと持たなければなりません。そして、一緒に意図的にさらに努力しなければなりません。

### <②責任を担う愛の姿勢を保つことに注意すべきこと！>

今日本文の御言葉を通して私たちははじめての夫婦夫アダムと妻エバの過ちから学ばなければなりません。

私たちは自分の事だけではなく、共に、一緒に責任を担う関係にならなければなりません。責任をともに負う・担う関係ということは何を意味しますか。責任を負う担うということは特に自分だけではなく、愛する人の過ちを犯した時でも、その過ちの責任を正直に共に取ろうとしながら、支え合うことです。そのことがすべての人間関係だけではなく、神の御前での我々が持つべき態度だと聖書は教えています(第一ヨハネ1章9-10節「もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。10もし、罪を犯したことがないと言うなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。」)

責任を負う・担うということは自分の問題や過去の過ちに勇氣ある対面をすることです。もちろん、みなさん！ここで注意すべきことがあります。それはそのバランスです！つまり、すべての責任がいつも自分だけにあると思ひ込んではいけません！それは、間違った責任意識と姿勢です！自分がどうしても出来なかったことさえすら、すべて自分一人でのせいだと全部引き受けようとしたりするのは、問題をさらに大げさにしてしまうのか、自分を虐待させることにしかありません！反面、すべての責任をほかの人に転嫁することも正しくありません。それによって、信頼と愛の関係が崩され、愛する人を傷つけてしまうことでさらに根本的な問題解決から遠く離れてしまうことになります。

一時期、私はすべての問題の責任を自分が負うべきだと思った時がありました。すべての人とすべての責任が自分にあると考え込んでしまった結果、自己卑下になったり、自分自身を責め、自己を虐待し、意欲を失って自分が無気力になってしまった時があります。しかし結局、それは決して神様の前で謙遜でもないし、正しい考え方、心でもないことがわかりました。

そしてある人の場合はすべての責任を取ることに回避したり、他人に転嫁してしまう時もあります。自分自身が問題に直面する勇氣がなく、その問題から逃げたい、避けたいという心が一つの原因にもなります。自分自身に不利な時、他人の目が気になった時、我々はすぐさま、自分の環境や自分の家族とかだれかを責めたり、他人に責任を追い詰めた時ありませんか。みなさんはいかがですか。どちらかに似ている状況のところはないでしょうか。

私たちは正しい責任感を持つためには正しい見極め分別力を持たなければなりません。もちろん、言葉通りにそう簡単ではないと思います。だからこそ、自分や夫婦関係や家族の関係のため、限界ある我々は常に神に祈り求める必要があるのではないのでしょうか。我々もいつもこう祈りませんか。“神様、どうか私に、夫に、子どもたちにお与えください。わたしたちを助けて下さい。変えられないものを受け入れる心の平安を・変えられるものを変える勇氣を・そして、その違いを見極める知恵を！”

自分の負うべき責任は何かをよく知り、その責任から逃げようと、避けようと、転嫁しようとしてははいけません。そして自分がどこまで責任を取り、どこまで責任を負えないかも見極める知恵が必要です。私たちは神様ではありません。ですから私たちは自らすべての問題を解決出来る力も、すべての責任をも取ることもできないからです！

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族みなさん！愛するということは何でしょうか。私は愛するということは最後までどんな犠牲が伴っても、責任を負うことだと信じます！！私たちは愛すれば愛するほど、愛する人のために、責任を取ろうとするようになり、愛するため責任を担おうとします。自ら最後まで責任を負おうとする人！有名な哲学者だったドイツのイマヌエル・カントという人は“人の真の人格というのは責任能力だ”だと言いました。



しかし、愛への責任を完遂(かんすい)する力はどこから来るのでしょうか。当然愛から出るでしょう。

ですから私たちはいつも愛の責任に基づいて問題などを解かさなければなりません。

みなさんは愛の最高の表現はなんだと思いますか。愛の告白でしょうか、プレゼント、ユーモア、スキンシップでしょうか。

私は人の愛の最高の表現は、それは愛する人のために自ら責任を負って喜んで犠牲を払うその支える姿だと信じます。

みなさんは今まで愛するだれかのために喜んで責任をもって犠牲になってあげたことではあるのでしょうか。

愛する人の為犠牲を払うことは自分が代わりにする、あるいはともに責任を負い合うことなのです！ある出来事に対して責任が全部自分にあるわけではないが、愛するがゆえに相手が問われるべき責任も共に負おうとすること！(いつも正直な分かち合いと足りなくても信頼し、受け入れる姿勢が必要でしょう)

これが愛する人との関係を保つための責任ある姿であり、本当の人格であり、成熟された愛だと信じます。

反対に、未熟な人たちはすぐ相手のせいにし、相手を責め、自分はそうしていないのに、いつも相手に自分の責任まで取ってくれるように要求します。未熟な人たちがたやすく相手のせいにしてしまう理由は何でしょうか。自分自身はつらい思いに直面したくないからです。自分の苦手な、重たい問題や結果からは避けたいからです。自分は困った結果や真実に直面したくないからではないでしょうか。そういうわけで関係はさらに深刻になるのみです。

そして、もう一つ注意するのは、お互いに責任を負おうとする時、お互いに当たり前を考えてしまわないように気をつけましょう。問題に直面する時、人の過ちや問題を指摘し、責めたり、責任を問うのは家族じゃなくてもだれでもできることでしょ。しかし、家族であるならば、お父さんが妻や家族のため、親が子供たちのため、成長した子供たちが親のため、夫婦の間、愛の責任を取ろうとすることや自己犠牲を自ら払おうとする姿勢や姿に対して家族は当たり前だと思わないでください。連帯で赦し、励まし、愛への感謝の心を持って表しながら、共に最後まで責任を担おうとする熟した愛の姿勢が必要です。

だれでも、過ちをする時はあります！未熟で足りない時も、よくない状況や結果になる時もあるでしょう。しかし、その時、まるで、その時は完全に別々のように、その人の責任だから、その人が責任を負うことが当たり前だとすると、過ちを犯した者はそこから完全に立ち返るのが、より遅くなってしまいます。本当の愛する家族や関係であるなら、家族の中だれか一人が過ちを犯した時、家族なら、共に責任を感じ、共に連帯でその責任を負おうとする姿勢を通して、愛はさらに励ましと信頼となり、以前よりさらに家庭が強くなり、傷や問題からいやされ、回復されて行く関係になれると信じます。これが各家族だけではなく、神の家族である教会の中でも同じになると信じます。

私たちが教会の中でもいつも共にキリストの愛を持って責任を担いつつ、共に支え、倒れた人を暖かく励ますことができる成熟した人格者で真の信仰者たちだと信じます。そのようにますます主にあつてもともに成熟した愛の実が見える形として豊かに結ばれていきますように心より願います。キリストの教会、特に我らが属している牧場というところは自己中人々がキリストの愛を受け、罪から赦され、他人を自身のように愛する事を学び、訓練し練習するところです。そしてその愛を实践する場所がみなさんの家々であります。

直接的に自分には関係がないとしても一つの家族であり、主にある兄弟、姉妹であるため、喜んでともにキリストの愛を持って責任を負い合い、益々神に喜ばれる人格的なクリスチャンの愛の姿勢に変わっていく場所として全クリスチャンプレイズ教会の家族の愛が豊かに用いられますように心からお祈り致します！

### <③ 我らの成熟した愛の模範: 私たちの代わりに、罪の全ての責任を背負って下さった愛なるイエスキリスト>

神様が罪を犯したアダムとエバのためにされたことがあります。何でしたか。創世記3章21節を見ると、「神である主は、アダムとその妻のために、皮の衣を作って彼らに着せられた。」と書かれています。神様が彼らに着せて下さった皮の衣は羊の血が流されて作られた衣です。アダムとエバの罪の恥を解決させるために、神ご自身が羊を犠牲にさせて作って下さったのです。

実は、創世記 3章21節では、やがて私たちの罪のために十字架にかかって下さるイエスキリストを象徴する箇所なのです。

イエス様はこの世に子羊として来られたのです。(ヨハネの福音 書1章29節「その翌日、ヨハネは自分の方にイエスが来られる

のを見て行った。「見よ、世の罪を取り除く神の子羊。」)。そしてこの地に来られて成されたことは罪人の人々のため、彼らをのろわず、責任を問わず、ご自身が持つておられる愛を残るところもなく、すべてを示してくださいました(ヨハネ福音書13章1節「さて、過越の祭りの前のこと、イエスは、この世を去って父のみもとに行く、ご自分の時が来たことを知っておられた。そして、世にいるご自分のものたちを愛してきたイエスは、彼らを最後まで愛された。」)。そして、ついに、イエス様の十字架の血潮によって私たちの罪を赦してくださいました。つまり、私たちの罪に対するすべての責任と罪の代価をご自身に負わせ、私たちの代わりに罪の代価と責任をイエス様が負ってくださって十字架で死んでくださったのです！そして私たちの子羊なるイエス様の血潮によって、救いと回復の衣を着せてくださったのです！イエス様は私たちが負うべき罪の呪いと裁きを十字架で受け、私たちには関係のまことの和解(回復)を与えてくださいました！神様と人々と和解させる、関係の回復の恵みを与えてくださったのです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！初めてのアダムは罪を犯した後、その罪を、一番、親しい人に、そして神様にその罪を転嫁しようとした。これによって人類に罪の責任が転嫁され、罪が転嫁され、罪の結果、死が転嫁されてしまいました。しかし最後のアダムであられるイエス様は罪を知らないのに、私たちに対する愛のゆえにむしろ私たちの代わりに罪とされたのです。ローマ人への手紙5章8節、「しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」

そして、第二コリント人への手紙5章21節「神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方にあつて神の義となるためです。」わたしたちの代わりに、罪の全ての責任を負ってくださったのです。そしてイエス様は十字架で死んでくださったことによって、私たちと神様との関係、罪ある人との関係のすべての壁を打ち壊し、和解させてくださいました！へだての壁を打ち壊し、二つのものを一つにしてくださいました(エペソ人へ手紙2章:14節「実に、キリストこそ私たちの平和です。キリストは私たち二つのものを一つにし、ご自分の肉において、隔ての壁である敵意を打ち壊し、」)

### <まとめ>

「何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。(ペテロの手紙第一4章8節)」

罪ある我らは間違いや過ちを犯しやすく、色んな面において弱さを持っている不完全な者たちです。しかし、互いに、成熟した愛を持って最後まで愛の責任を負い合うことによって、多くの罪から守られ、回復されると信じます。ご自分の家族、私たちの教会の家族だけでも、アダムとエバの夫婦のように相手に責任転嫁しながら、責任から回避をしないように警戒しましょう。未熟で自己中な責任を他人に転嫁しようとする姿勢はもうやめましょう。自分の責任だけではなく、愛するがゆえに愛する人への責任までも、ともに負える成熟されたキリスト者にさらになりましょう。

さらにそうなるために、今も罪人である私たちを愛しておられ、私たちのすべての罪の責任を身代わりに負ってくださったイエス様の恵みと愛の力を頼り、我らの愛がさらに成熟されて行くように切に求めましょう。私たちの人生は、問題から逃げ、苦しみを避け、責任を自ら覆うとしない限り、決して幸福にはなれません。いやむしろもっと関係が崩れ、不幸になる一方です。しかし、愛なる神様の助けをいただいて、イエスキリストご自身が我らになされ、今もなおそうなされておられるように、問題に直面し、共に成熟された関係として、責任を負い、どんな悩みや葛藤があっても、関係が守られ、幸福になれます。

この7月、蒸し暑くなるこの時期、そして、今年の残りの下半期(しもはんき)に我々の愛が成熟されていつの間にか愛が豊かに目に見える形として愛の実が結ばれて行く全夫婦関係、家族関係、全神の信仰の家族の関係となりますようにお祈り申し上げます！アーメン！

